

編修趣意書

教育基本法との対照表

| 受理番号 | 学校 | 教科 | 種目 | 学年 |
|-----------|-----------|------|----|-----|
| 26-47 | 中学校 | 国語科 | 国語 | 2学年 |
| 発行者の番号・略称 | 教科書の番号・略称 | 教科書名 | | |
| 38 光村 | 国語 831 | 国語2 | | |

I. 編修の趣旨及び留意点

編修の趣旨

「言葉」と向き合い、新しい時代を生き抜く「国語の力」をはぐくむ

- ・ **確かな学びを**——国語の学習のしかたがわかり、主体的に取り組めるように。
- ・ **言葉との出会いを**——たくさんの言葉と出会い、豊かな心、考える力を培えるように。
- ・ **未来をひらく力を**——多様な作品を通して、人間、社会、世界へ思いを巡らせるように。

編修の留意点

1 言語に対する関心を高め、生きてはたらく国語の力を育成する。

- ・ 言語の教育としての立場を重視し、国語に対する関心や理解を深めるとともに、実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を言語活動を通して育成することを目指しました。

2 伝統的な言語文化に触れて豊かな感性を育成する。

- ・ 我が国の言語文化に触れ、それらを享受・継承し、新たな創造へとつないでいくために、生涯にわたって古典に親しむ態度の育成を目指しました。

3 コミュニケーション能力を育成する。

- ・ 相手や目的、意図、場面に応じ、互いの立場や考えを尊重し、課題の解決に向けて協力し合ったり助言し合ったりする活動を通じて、コミュニケーション能力を育成することを目指しました。

4 豊かな心を育成する。

- ・ 読書に親しみ、ものの見方・感じ方・考え方を広げたり深めたりする態度や、自分の読書生活を振り返り、日常的な読書をより豊かなものにしようとする態度を育成することを目指しました。

5 情報社会を生き抜く能力を育成する。

- ・ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習活動において、課題解決を行う過程で、情報活用能力を育成することを目指しました。
- ・ 図書・資料の検索に図書館や情報機器を効果的に活用する方法などを学び、読書生活を充実させようとする態度と情報活用能力を育成することを目指しました。

6 社会の変化に主体的に対応する能力を育成する。

- ・ さまざまな読み物や学習活動を通じて、人と社会の多様性を認め、それを尊重する態度と、社会の変容に対応できる力を育成することを目指しました。

II. 編修の基本方針

編修の趣旨及び留意点で挙げた各項目を実現するために、以下の方針に基づいて教科書を作成しました。

■ 学習で身につける力を明確に示した教科書

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」教材の冒頭には、「目標」を明示し、その学習でどんな力を付けるのかを、生徒に向けてはっきりと示しました。教材内に位置付けた「学習の窓」(p.28など)では、その学習を通して身に付ける力や文章の内容を理解するためのポイントを簡潔にまとめ、これを示しました。

■ 学習過程を提示し、主体的に学習に取り組むことができる教科書

- 生徒が、主体的に学習に取り組み、自ら課題を発見し、考え、解決できるように、冒頭に「学習の見通しをもとう」(p.8~12)を設けました。年間を通してどんな力を身に付けていくのかを見通し、それぞれの教材の学習のポイントを一覧にまとめてわかりやすく示しました。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材の冒頭にも、「学習の見通しをもとう」(p.34など)のコーナーを置き、図式化して学習の流れを理解しやすくしています。

■ 言語活動を通し、言葉の力を日常生活や社会生活に生かせる教科書

- 学習したことを広く日常生活や社会生活に生かしていけるよう、各教材には、学習のねらいに即した必然性のある言語活動を設定しています。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「文法」「言葉」には、「生活に生かす」「他教科に生かす」(p.38など)を位置付け、その学習で身に付けた言葉の力を生かすことのできる「実の場」を具体的に例示しました。

■ 「習得」から「活用」を重視した教科書

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、「練習」教材(p.30など)を随所に設け、身に付けたい力をコンパクトに習得し、その後の教材の学習に有機的に活用できるように位置付けました。

■ 伝統的な言語文化を尊重し、国語と郷土を愛する心を育成する教科書

- 古い時代から現代まで受け継がれてきた、さまざまな古典作品を掲載しました。「季節のしおり」(p.31など)では、四季にちなんだ言葉や作品の一節を紹介することで、豊かな感受性とともにはぐくまれた日本の伝統的な言葉に触れる機会をもち、日本語そのものに興味をもつことを目指しています。

■ 読書の価値を実感できる教科書

- 教材ごとに、同一の作者、テーマなど、教科書での学習と関連させる「広がる読書」(p.27など)を示し、充実した読書生活を送るための場を設けました。「読書コラム」(p.89)では、翻訳者や映画監督、作家など多様な筆者による、読書への興味付けのメッセージを掲載しています。

■ 情報化時代を生き抜く力を身につける教科書

- 情報社会に的確に参画できる情報活用力を培うため、さまざまな情報の集め方(1年)や、メディアリテラシー(2年p.56)、情報発信(3年)などについて考えを深める教材を系統立てて取り入れました。著作権(2年p.60)や情報モラル(3年)などについても意識を高める工夫をしています。

■ 小・中9年間の系統性を重視し、生徒の発達段階に応じて、個性を引き出す教科書

- 学年のキーワードとして1年「確かさ」、2年「豊かさ」、3年「深さ」を設定しました。1年では小学校で身に付けた力をより確かなものにし、2年でそれをより高め、3年では充実感として深めていけるよう、教材構成を工夫しました。
- 学習活動には、生徒の具体的な発言を取り入れて考え方のヒントを示したり、「交流」の場を多く設けたりしています。生徒一人一人が個性を生かして学習に臨み、互いに助言し合ったり、認め合ったりしていく中で、心の豊かさや言葉の豊かさについて考え、気づき、学習することの喜びや達成感を得られるようにしました。

Ⅲ. 対照表

| 図書の構成・内容 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 |
|---|--|-----------------------|
| 表見返し・口絵・目次・中扉 | ○ 自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うために、表見返しと中扉では、四季折々の生物の写真を取り上げた。 ——【第四号】 | ・表見返し ・中扉 (p.15など) |
| | ○ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために、口絵では、生徒の学習への興味・関心を引く視覚的な資料を多数掲げ、目次等で示す単元名では、「広がる学びへ」「多様な視点から」など、追究すべきねらいを明確に示した。 ——【第一号】 | ・口絵・目次 |
| 1 広がる学びへ 「見えないだけ」 「アイスプラネット」 「季節のしおり」 「枕草子」 「多様な方法で情報を集めよう」 | ○ 豊かな情操と創造性を培うために、学年開きとして詩教材「見えないだけ」を位置付けた。 ——【第一号】【第二号】 | ・p.16～17 |
| | ○ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを意図して、物語教材「アイスプラネット」を位置付け、広い視野をもつことの大切さを意識づけるようにした。 ——【第一号】 | ・p.18～29 |
| | ○ 伝統や文化を尊重することを通じて豊かな情操を培うため、年間4箇所位置付けた「季節のしおり」に、四季に応じた詩歌や二十四節気の言葉を配した。 ——【第一号】【第五号】 | ・p.31 |
| | ○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を涵養するため、古典教材「枕草子」を位置付けた。 ——【第五号】 | ・p.32～33 |
| | ○ 職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を、「多様な方法で情報を集めよう」で職業ガイドづくりを通して培うようにした。 ——【第二号】 | ・p.34～38 |
| 2 多様な視点から 「生物が記録する科学——バイオリギングの可能性」 「魅力的な提案をしよう」 「メディアと上手につき合うために」 「著作権について」 | ○ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために、説明文教材「生物が記録する科学——バイオリギングの可能性」を位置付け、科学的なものの見方を示した。 ——【第一号】 | ・p.42～50 |
| | ○ 自他の敬愛と協力を重んずるきっかけとなるよう、「魅力的な提案をしよう」を位置付け、説明する相手のことをよく考え、グループで協力しながらプレゼンテーションをさせるようにした。また、郷土を愛する心を涵養するために、題材として「地域のよさを紹介すること」を設定した。 ——【第三号】【第五号】 | ・p.52～55 |
| | ○ 公共の精神に基づいて幅広い知識と教養を獲得するために「メディアと上手につき合うために」を、また正義と責任について意識付けるために「著作権について」を位置付けた。 ——【第一号】【第三号】 | ・p.56～60 |
| 3 言葉と向き合う 「新しい短歌のために」 「短歌を味わう」 「言葉の力」 | ○ 我が国の短詩型文化の伝統を尊重し、豊かな情操と創造性を培うことを目的に、短歌を読み味わう「新しい短歌のために」「短歌を味わう」を位置付けた。 ——【第一号】【第二号】 | ・p.64～68 |
| | ○ 言葉についての幅広い知識と教養を、随筆「言葉の力」を通して感じ取らせるようにした。 ——【第一号】 | ・p.70～73 |
| 読書生活を豊かに——外国文学を味わう 「世界で一番の贈り物」 「本の世界を広げよう」 | ○ 他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を培うために、物語教材「世界で一番の贈り物」を位置付けた。 ——【第五号】 | ・p.76～83 |
| | ○ 道徳心や環境の保全、国際社会の平和と発展に寄与する態度を培うために、「人間の生き方」「環境」「戦争・平和」などをテーマにした数多くの書籍を紹介する「本の世界を広げよう」を位置付けた。 ——【第一号】【第四号】【第五号】 | ・p.86～88 |
| 4 関わりの中で 「盆土産」 「字のない葉書」 「気持ちを込めて書こう」 | ○ 豊かな情操を培うため、親子の心の結び付きを描いた物語教材「盆土産」、随筆「字のない葉書」を位置付けた。 ——【第一号】 | ・p.92～110 |
| | ○ 「気持ちを込めて書こう」では、「手紙」という形式の中で日本人がはぐくんできた伝統と文化を尊重することを学び、また、「職場体験」という題材を通して勤労を重んずる態度を意識させるようにした。 ——【第二号】【第五号】 | ・p.112～115 |

| 図書の構成・内容 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 |
|--|---|--|
| 「モアイは語る——地球の未来」 「敬語」 | ○ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことに加え、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うため、説明文教材「モアイは語る——地球の未来」を位置付けた。——【第一号】【第四号】 ○ 「敬語」の学習を通じて、道徳心や自他の敬愛と協力、日本語がはぐくんできた伝統と文化を尊重する態度を養うようにした。——【第一号】【第三号】【第五号】 | ・p.116～124 ・p.125～127 |
| 5 いにしへの心を訪ねる 「扇的——平家物語から」 「仁和寺にある法師——徒然草から」 「漢詩の風景」 | ○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を涵養するため、古典作品「扇的——平家物語から」「仁和寺にある法師——徒然草から」を位置付けた。また、「漢詩の風景」では、漢詩文化を通じた我が国と中国との関係を考え、尊重する態度を養うようにした。——【第五号】 | ・p.132～152 |
| 6 論理を捉えて 「君は「最後の晩餐」を知っているか」 「相手の考えを踏まえて発言する」 「話し合って考えを広げよう」 「根拠を明確にして意見を書こう」 「落葉松」 | ○ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うため、美術評論「君は「最後の晩餐」を知っているか」を位置付けた。——【第一号】 ○ 個人の価値を尊重しながら、自他の敬愛と協力を重んずる態度を「相手の考えを踏まえて発言する」で、議論のしかたを通して養うようにした。——【第二号】【第三号】 ○ 個人の価値を尊重しながら、自他の敬愛と協力を重んずる態度を「話し合って考えを広げよう」で、パネルディスカッションを通して養うようにした。また、題材を「日本のよさを紹介する」とし、我が国と郷土を愛する心を培うようにした。——【第二号】【第三号】【第五号】 ○ 国際社会における正義と責任、環境の保全に寄与する態度を、「根拠を明確にして意見を書こう」の題材「パソコンのリサイクル」を通じて考えさせるようにした。——【第三号】【第四号】 ○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛することを、近代詩「落葉松」を声に出して読み味わうことで培うようにした。——【第五号】 | ・p.154～164 ・p.165 ・p.166～170 ・p.172～175 ・p.176～177 |
| 読書に親しむ —地域と共に 「小さな町のラジオ発——臨時災害放送局『りんごラジオ』」 「本の世界を広げよう」 | ○ 公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画する態度を、「小さな町のラジオ発——臨時災害放送局『りんごラジオ』」の筆者の生き方や考え方を通じて気づかせるようにした。——【第三号】 ○ 健やかな身体や、勤労を重んずる態度、公共の精神を養うために、「食」「職業」「福祉」などをテーマにした数多くの書籍を紹介する「本の世界を広げよう」を位置付けた。——【第一号】【第二号】【第三号】 | ・p.180～186 ・p.187～189 |
| 7 表現を見つめて 「走れメロス」 「科学はあなたの中にある」 「一年間の学びを振り返ろう」 「鍵」 | ○ 正義と責任、自他の敬愛について思いをいたすために、登場人物の心の葛藤を描いた小説「走れメロス」を位置付けた。——【第三号】 ○ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うため、論説「科学はあなたの中にある」を位置付けた。——【第一号】 ○ 幅広い知識と教養を身に付け、主体的に社会の形成に参画する態度を、1年間の国語学習を総括する教材「一年間の学びを振り返ろう」で、学びと社会生活との関わりを考えながら意識化させるようにした。——【第一号】【第三号】 ○ 真理を求める態度と自主自律の精神について、詩教材「鍵」を読み深めながら涵養できるようにした。——【第一号】【第二号】 | ・p.192～210 ・p.218～225 ・p.228～233 ・p.234～236 |
| 学習を広げる（資料） 「五重の塔はなぜ倒れないか」 「古典の世界を広げる」 「古典芸能の世界」 「郷土ゆかりの作家・作品」 | ○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を「五重の塔はなぜ倒れないか」「古典の世界を広げる」「古典芸能の世界」「郷土ゆかりの作家・作品」でさらに深めるようにした。——【第五号】 | ・p.272～277 ・p.278～279 ・p.280～281 ・p.282～285 |
| 後見返し | ○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を、日本の伝統色の名称を集めた「色いろの言葉」によって興味を引きながらはぐくむようにした。——【第五号】 | ・後見返し |

IV. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

■ 特別支援教育・色覚特性への配慮

学習上の支援が必要な生徒のために、また、教科書のユニバーサルデザインという観点から専門家による校閲を行い、特に以下の点に配慮しました。

[学習の流れを把握しやすいように]

- 学習の流れを把握し、見通しをもてることが理解を助けるとの観点から、「話すこと・聞くこと」「書くこと」活動の冒頭に活動の流れを図示した「学習の見通しをもとう」を位置付けました。また、「読むこと」教材内の「学習」においても設問に番号を振り、見出しを立てて、学習のステップをわかりやすく示しました。

[色覚特性への配慮]

- 色覚特性に配慮し、色による識別に頼ることなく、形（実線と破線による区別など）や濃淡で識別できること、判別しにくい色の組み合わせは行わないことなどを基本に図表を作成しました。また、色を問うような学習活動は設定しないようにしました。

■ 学年間の連携を図る配慮

1年から2年へのスムーズな連携と学習の蓄積に配慮しました。

「いつも気をつけよう」(p.13)

- 冒頭に、1年生で学習した内容を領域ごとにまとめたページを設けました。前学年で身に付けた力を振り返りながら、2年生の学習でこれを生かしていけるようにしたことで、学びを積み重ねていくことの重要性を意識付けることに配慮しています。

■ 学習の習慣化を図る配慮

年間を通して継続して取り組むコーナーを設け、学習の習慣化を図りました。

「続けてみよう」(p.14)

- 生活の中で感じた疑問や感動をそのままにせず、書き留めることを習慣化する活動を冒頭に示しました。1年間継続して取り組む達成感を味わうとともに、意見文や物語創作の学習を行う際の素材にもなるよう配慮しました。

■ 道徳教育との連携・人権教育への配慮

道徳教育・人権教育の観点からアプローチできるように配慮しました。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」

- 「時と場合に応じた適切な言動」「相手の人格を尊重する」「それぞれの個性や立場を尊重する」など、題材や活動の選定に配慮しました。

「読むこと」

- 「自己を見つめる」「友情の尊さ」「異性への理解」「生命の尊さ」「自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心」「人間の強さや気高さ」「優れた伝統の継承と新しい文化の創造」など、題材の選定に配慮しました。

■ 未来に向かって力強く生きようとする力を育成する配慮

- 東日本大震災という未曾有の事態を経て、社会情勢や価値観が変容する中、生徒が未来に向かって力強く生きていくことに資する教材を「国語」の観点から選びました。生徒が自分の生き方を見つめ、「言葉の力」によって未来を切り開くことができるような教材を数多く取り上げています。

編修趣意書

学習指導要領との対照表，配当授業時数表

| 受理番号 | 学校 | 教科 | 種目 | 学年 |
|-----------|-----------|------|----|-----|
| 26-47 | 中学校 | 国語科 | 国語 | 2学年 |
| 発行者の番号・略称 | 教科書の番号・略称 | 教科書名 | | |
| 38 光村 | 国語 831 | 国語2 | | |

I. 編修上特に意を用いた点や特色

構造上の特徴

1 「言葉」との出会いを大切にする。

- 3年間を通じて、言葉そのものを深く見つけ、言葉のもつ力を考える教材を多数位置付けました。
- 1年冒頭の「言葉に出会うために」では、言葉に出会う喜びと意義について触れました。各学年に設けた「続けてみよう」のコーナーでは、心に残った言葉を常に書き留めたり「創作メモ」(p.14)を作ったりしながら、言葉に対する感覚を磨くことを習慣化するようにしました。
- 各学年の第3系列は、1年「言葉をつなぐ」、2年「言葉と向き合う」、3年「言葉を見つめる」とし、言葉をテーマにした教材を位置付けました。さまざまな角度から言葉についてじっくり考えられる場としています。

2 思考のプロセスが身につくように。

- 領域ごとに、学びの手順を統一し、「目標」「学習の窓」「学習を振り返る」「次へつなげよう」などの柱を立て、それぞれの具体的な手立てを示しました。生徒が、自分の言葉で感じ、考え、表現するプロセスを身に付けることができます。

| 読むこと | 学習の見通しをもつ | 話すこと・聞くこと／書くこと | | | | |
|--|--|--|-----------|-------------|--|---|
| <p>「目標」</p> <p>教材冒頭に置き、何に注目して読んでいくかを見通せるようにしました。</p> | <p>学習の 見通しをもつ</p> <p>学習・活動に 取り組む</p> | <p>「目標」</p> <p>学習の焦点化を図りました。</p> <p>「これまでの学習を生かそう」</p> <p>既習事項を確認できる場を設けました。</p> <p>「学習の見通しをもとう」</p> <p>学習の流れを4つのステップに沿って示しました。</p> | | | | |
| <p>「学習」</p> <p>手引きを3つのステップに構造化しました。</p> <table border="1"> <tr> <td>1 確認しよう</td> </tr> <tr> <td>2 読みを深めよう</td> </tr> <tr> <td>3 自分の考えをもとう</td> </tr> </table> | | 1 確認しよう | 2 読みを深めよう | 3 自分の考えをもとう | <p>見つける・集める ↓ 深める・整理する ↓ まとめる・表現する ↓ 伝え合う・つなげる</p> | |
| 1 確認しよう | | | | | | |
| 2 読みを深めよう | | | | | | |
| 3 自分の考えをもとう | | | | | | |
| <p>「学習の窓」</p> <p>身に付ける力のポイントを示し、基礎・基本を確認できるようにしました。(全領域共通)</p> <table border="1"> <tr> <td>の</td> <td>学</td> </tr> <tr> <td>窓</td> <td>習</td> </tr> </table> | の | 学 | 窓 | 習 | <p>次の学習に 生かす</p> | <p>「次へつなげよう」</p> <p>学習を振り返るだけでなく、学んだことを他教科や日常に生かせるよう、具体的な活用の場面まで示しました。</p> |
| の | 学 | | | | | |
| 窓 | 習 | | | | | |

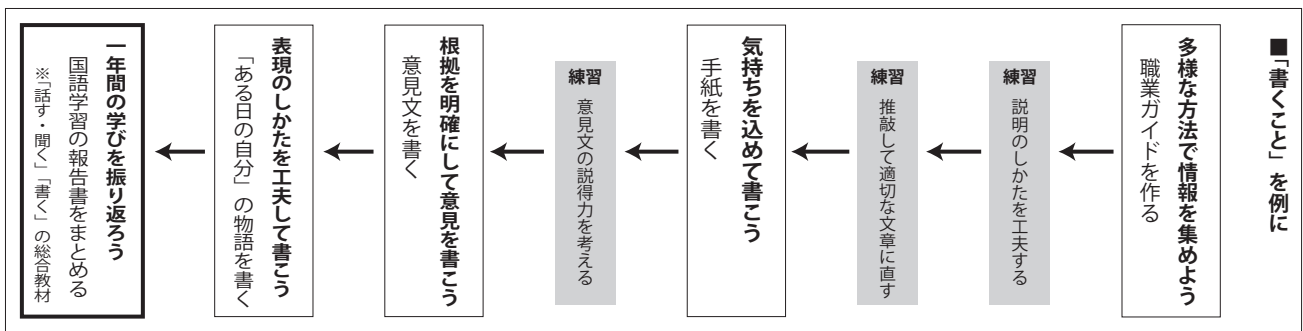
3 見通しをもって主体的に学べるように。

- 教科書冒頭に位置付けた「学習の見通しをもとう」(p.8~12)では、1年間でつける力を見通し、どんな力をどの教材で焦点化して学ぶかを視覚的にわかるように一覧表で表しました。今、学んでいることが前後の教材とどのように関わっているのかがひと目で理解でき、生徒が主体的に学習計画を立てたり、振り返りに使ったりすることができます。

| 説明・発表 | 討議 | 話し合い | 説明・発表 | 聞く | 話すこと 聞くこと | どんな学習をするのか見通してみよう |
|---------------|--------------|----------------------|----------------------------------|---------------------------|--|-------------------|
| 国語学習の報告書をまとめる | 一年間の学びを振り返ろう | 話し合っ て考えを 広げよう | 練習 相手の 考えを踏 まえて発 言する | 練習 要点を 整理して 聞き取る | 教材 | |
| 228 | 166 | 165 | 52 | 30 | 話題の設定・取材 社会生活の中から話題を決める 多様な方法で材料を集め整理する | 何度も繰り返して積み |
| | | | | | 話す 異なる立場や考えを 想定して考えをまとめる 論理的な構成や展開を考え て話す(話の中心とそれを 支える部分) | |
| | | | | | 資料や機器を効果的に活用 する | |

4 「習得」と「活用」を繰り返し、力を積み重ねる。

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、本教材と練習教材を設けました。練習教材は、1ページ構成で配当時間も1時間とし、一つの力に特化して習得を旨とします。そこで付けた力を本教材で活用することによって、学習を積み重ねていく構成になっています。



領域ごとの特色

■「話すこと・聞くこと」「書くこと」

- 学ぶ必然性が感じられる活動や題材を設定し、学んだことが日常生活で生きるようにしました。
- 学習を振り返り、次へつなげていく場面では、必ず「他教科に生かす」「生活に生かす」の項目を立て、身に付けた力が「実の場」で応用できるようなヒントを示しています。

■「読むこと」

- 文学的な文章では、生徒と等身大の人物が登場する作品をはじめ、外国文学・随筆・詩歌など多様な作品世界をバランスよく位置付け、豊かな心をはぐくむことができました。
- 説明的な文章では、自然科学・社会科学・人文科学の幅広い分野から、生徒の興味を引くテーマを選び、主体的に読み進めながら文章構成や論理展開を学び、もの見方や考え方を深めることができました。

■「古典」

- 生徒が興味をもって主体的に享受できるように、導入は「平家物語」の冒頭部分(p.132)を設定し、音読を楽しみながら古文の響きやリズムに親しめるようにしました。
- 図版(p.140・141)など、生徒の興味を引くものも交えながら構成し、古典に登場する人物の特徴を捉えてその人物像を考える「人物の特徴を捉えて論じよう」(p.145)などの言語活動を通して、古典をより身近なものとして捉えさせる工夫をしました。

■「読書」

- 多様な作品に出会い、読書の楽しさを感じられるように、夏休み前と冬休み前に「読むこと」教材にはないジャンルの作品を位置付けました。冬休み前の系列は、人の生き方に焦点を当てたノンフィクションを置き、伝統の中で、災害の中で、戦争の中で、前向きに生きる人々の姿を通して、生徒が自分自身を深く見つめることができるようにしました。
- 「読むこと」教材の後には、作者やテーマと関連する本を紹介する「広がる読書」を設け、読書教材の「読書案内」と合わせて3年間で243冊の本を紹介しています。

| | 文学的文章（夏休み前） | 説明的文章（冬休み前） |
|----|-----------------|--------------------------------------|
| 1年 | 光る地平線〈ファンタジー〉 | 桜守三代〈ノンフィクション・伝記〉 |
| 2年 | 世界で一番の贈り物〈外国作品〉 | 小さな町のラジオ発——臨時災害放送局「りんごラジオ」〈ノンフィクション〉 |
| 3年 | 高瀬舟〈近代文学〉 | エルサルバドルの少女 ヘスース〈ノンフィクション〉 |

■「情報」

- 課題解決を行う過程で、多様な方法で情報収集をし、それを活用できる力を育成するために、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」全ての領域で活動を取り入れました。
- 情報社会に的確に参画できる力を培うため、1年から3年まで情報に関する教材を特設するとともに、著作権や情報モラルなどについても意識を高められるよう、教材化を図りました。

| | 情報教材 | 情報コラム |
|----|----------------------------|---|
| 1年 | 情報の集め方を知ろう〈情報収集〉 | ・本から情報を集める ・インターネットを利用する ・新聞の紙面構成の特徴を知る |
| 2年 | メディアと上手に付き合うために〈メディアリテラシー〉 | ・著作権について知る |
| 3年 | 「想いのリレー」に加わろう〈情報発信〉 | ・情報モラル（話し合い活動と絡めて） |

学習効果を高めるための工夫

■ 読みの基本を確認する（巻末折込）

作品や文章をより深く読み取るための観点として、「登場人物の心情」「要約と要旨」など基本的な学習用語を整理し、解説を加えたページを設けています。折込形式なので、いつでも参照しながら読みの基本を確認することができます。

■ 活動や着眼点を明示

○ 交流の場を明確に示す



マークを付し、課題について確認し合ったり、感想を述べ合ったりする場を明確に示しました。

○ 表現の幅を広げる



マークを付し、言語活動の種別に適した言い回しや語彙を集めています。（「アドバイスするときの表現」など）話すとき・書くときの表現の幅が広がるように工夫しました。

○ 関連する他教材へのリンク



前に学習したことを振り返ったり、関連して学習したりすると効果的なページを示し、1年間における学習の積み重ねが容易に意識できるように工夫しました。

Ⅱ. 対照表

| 図書の構成・内容 | 箇所 | 学習指導要領の内容 | | | | 時数 |
|----------------------------|---------|-----------------|--------------|--------------|--------------------------|-----|
| | | A 話すこと・ 聞くこと | B 書くこと | C 読むこと | 伝統的な言語文化と 国語の特性に関する事項 | |
| 1 広がる学びへ | | | | | | |
| 見えないだけ | 16～17 | | | (1)ア | | 1 |
| アイスプラネット | 18～29 | | | (1)アイ,エ(2)ア | (1)ウ(ア)(イ) | 5 |
| 練習 要点を整理して聞き取る | 30 | (1)エ | | | | 1 |
| 季節のしおり 春 | 31 | | | | (1)イ(イ) | — |
| 枕草子 | 32～33 | | (1)イ,ウ | (1)イ,エ | (1)ア(ア)(イ) | 3 |
| 多様な方法で情報を集めよう | 34～38 | | (1)ア,ウ,オ | | | 6 |
| 漢字1 熟語の構成 | 39～40 | | | | (1)イ(イ),ウ(ア)(イ) | 2 |
| 2 多様な視点から | | | | | | |
| 生物が記録する科学 ——バイオリギングの可能性 | 42～50 | | | (1)イ,ウ,エ(2)イ | (1)ウ(ア)(イ) | 4 |
| 練習 説明のしかたを工夫する | 51 | | (1)イ,ウ | | | 1 |
| 魅力的な提案をしよう | 52～55 | (1)アイ,ウ(2)ア | | | | 5 |
| メディアと上手に付き合うために | 56～59 | | | (1)エ,オ(2)ウ | | } 2 |
| 情報コラム 著作権について知る | 60 | | | (1)オ | | |
| 言葉1 類義語・対義語・多義語 | 61～62 | | | | (1)イ(イ) | 2 |
| 3 言葉と向き合う | | | | | | |
| 新しい短歌のために | 64～67 | | (1)イ,ウ(2)ア | (1)ア,エ(2)ア | (1)ア(ア) | } 3 |
| 短歌を味わう | 68 | | | (1)ア,エ(2)ア | (1)ア(ア) | |
| 言葉を比べよう | 69 | | (1)ア,ウ(2)ア | | (1)イ(イ) | 1 |
| 言葉の力 | 70～73 | | | (1)ア,ウ,エ(2)ア | | 2 |
| 文法への扉1 単語をどう分ける? | 74 | | | | 1年(1)イ(エ) | 2 |
| 読書生活を豊かに | | | | | | |
| 世界で一番の贈り物 | 76～83 | | | (1)ウ,エ,オ(2)ア | | } 3 |
| 二年一組のお薦め三十五冊 | 84～85 | | | (1)ウ,オ(2)ア,ウ | | |
| 読書案内 本の世界を広げよう | 86～88 | | | (1)エ,オ | | |
| 読書コラム たまには、少し変わった本を | 89 | | | (1)エ | | |
| 季節のしおり 夏 | 90 | | | | (1)イ(イ) | — |
| 4 関わりの中で | | | | | | |
| 盆土産 | 92～105 | | | (1)アイ,ウ(2)ア | (1)ウ(ア)(イ) | 5 |
| 字のない葉書 | 106～110 | | | (1)アイ,エ(2)ア | | 3 |
| 練習 推敲して適切な文章に直す | 111 | | (1)エ | | | 1 |
| 気持ちを込めて書こう | 112～115 | | (1)イ,ウ,エ(2)ウ | | (1)イ(ア) | 4 |
| モアイは語る——地球の未来 | 116～124 | | | (1)イ,ウ,エ(2)イ | (1)ウ(ア)(イ) | 5 |
| 言葉2 敬語 | 125～127 | | | | (1)イ(ア) | 1 |
| 漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 | 128～129 | | | | (1)イ(イ),ウ(ア)(イ) | 1 |
| 季節のしおり 秋 | 130 | | | | (1)イ(イ) | — |

| 図書の構成・内容 | 箇所 | 学習指導要領の内容 | | | | 時数 |
|----------------------------|---------|----------------|----------------|----------------|----------------------|-----|
| | | A 話すこと・聞くこと | B 書くこと | C 読むこと | 伝統的な言語文化と国語の特性に関する事項 | |
| 5 いにしへの心を訪ねる | | | | | | |
| 音読を楽しもう 平家物語 | 132 | | | | (1)ア(ア) | 1 |
| 扇の的——「平家物語」から | 133~141 | | | (1)イ,エ | (1)ア(ア)(イ) | 3 |
| 仁和寺にある法師——「徒然草」から | 142~145 | | (1)イ,オ(2)イ | (1)イ,エ | (1)ア(ア)(イ) | 3 |
| 漢詩の風景 | 146~152 | | | (1)ウ | (1)ア(ア)(イ) | 3 |
| 6 論理を捉えて | | | | | | |
| 君は「最後の晚餐」を知っているか | 154~164 | | | (1)ア,イ,ウ,エ(2)イ | (1)ウ(ア)(イ) | 4 |
| 練習 相手の考えを踏まえて発言する | 165 | (1)エ,オ | | | | 1 |
| 話し合って考えを広げよう | 166~170 | (1)ア,イ,エ,オ(2)イ | | | | 5 |
| 練習 意見文の説得力を考える | 171 | | (1)イ,ウ | | | 1 |
| 根拠を明確にして意見を書こう | 172~175 | | (1)ア,イ,ウ,エ(2)イ | | | 5 |
| 落葉松 | 176~177 | | | (1)ア,ウ(2)ア | | 1 |
| 文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。 | 178 | | | | (1)イ(エ) | 2 |
| 読書に親しむ | | | | | | |
| 小さな町のラジオ発——臨時災害放送局「りんごラジオ」 | 180~186 | | | (1)エ,オ | | } 1 |
| 読書案内 本の世界を広げよう | 187~189 | | | (1)エ,オ | | |
| 季節のしおり 冬 | 190 | | | | (1)イ(イ) | — |
| 7 表現を見つめて | | | | | | |
| 走れメロス | 192~210 | | (1)イ,ウ(2)ア | (1)ア,イ,ウ(2)ア | (1)ウ(ア)(イ) | 6 |
| 文法への扉3 一字違いで大違い | 211 | | | | (1)イ(エ),1年(1)イ(エ) | 2 |
| 表現のしかたを工夫して書こう | 212~215 | | (1)イ,ウ,オ(2)ア | | | 5 |
| 言葉3 方言と共通語 | 216~217 | | | | (1)イ(ア) | 2 |
| 科学はあなたの中にある | 218~225 | | | (1)ア,イ,エ(2)イ | (1)ウ(ア)(イ) | 3 |
| 漢字3 送り仮名 | 226~227 | | | | (1)ウ(ア)(イ) | 1 |
| 一年間の学びを振り返ろう | 228~233 | (1)ア,ウ,エ,オ(2)ア | (1)ア,イ,ウ,オ | | | 6 |
| 鍵 | 234~236 | | | (1)ア,イ,エ(2)ア | | 2 |
| 文法 | | | | | | |
| 一年生の復習 | | | | | (1)イ(ウ),1年(1)イ(エ) | |
| 1 自立語 | 238~256 | | | | 1年(1)イ(エ) | |
| 2 用言の活用 | | | | | (1)イ(エ) | |
| 3 付属語 | | | | | (1)イ(エ),1年(1)イ(エ) | |
| 漢字に親しもう | | | | | | |
| 漢字の練習 | | | | | (1)ウ(イ) | |
| 小学校六年生で学習した漢字 | 257~260 | | | | | |
| 小学校六年生で学習した漢字一覧 | 261~262 | | | | (1)ウ(イ) | |

合計時数 120